

研 究 結 果 報 告 書

タイ人学習者の日本語話し言葉コーパスによる独話教育の教材開発

所属： チュラーロンコーン大学 教養学部
役職： 日本語講座講師
氏名： アサダーユット チューシー

タイ人学習者の会話力については、会話のやりとりよりも単独での一定の長さのある話を行うことに問題がある。学習者の話す技能を高める方略が学習されていないのではないかと考え、そこで、本研究では、タイ人学習者の、「JF日本語教育スタンダード2010」による話し言葉における産出技能の方略の使用実態を把握するために、独話のコーパスを作成し、タイ人学習者の独話の学習困難点を解明する。

第Ⅰ段階で、収集したタイ人学習者と母語話者のスピーチのデータを分析して比較を試みた。分析については、Schiffrin (1987) の談話標識、中井 (2012) の言語的アクティビティ、佐久間 (2002) の談話展開機能を参考とした。また、教材開発のために、従来出版された教材と比較し、その結果、会話教材に明示すべきタイ人学習者のための学習項目は、①話の構成、②話の継続方法、③ターン交替の方法、④発話上の問題処理方法であることが分かった。

第Ⅱ段階で、海外における日本語学習者を対象とする教材開発の情報をシェアするため、ASEAN諸国の非母語話者間の話す技能を比較する必要がある。本研究では、インドネシア人学習者の独話のコーパスも作成し、タイ人学習者の独話の学習困難点と比較した。その結果、両方の学習者のスピーチでは話の継続方法の種類や注目を集める方法が限られていることが分かった。添加型と逆接型以外の展開方法や注目要求の表現をさらに学習すべきである。さらに、インドネシア人学習者よりタイ人学習者のほうが、ソ系による文間の連鎖をせず、言い誤りへのおわびをする頻度が高いことも分かった。独話練習の注意事項に追加すべきであろう。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

Use of Discourse Markers in Thai Intermediate Learners' Japanese Monologue, Asad ayuth Chusri, タイ国日本語教育研究会, 2014/3/22, The Bangkok Japan Foundation.

「海外における中級日本語学習者の独話教育のための会話ストラテジー—タイ人とインドネシア人学習者の場合—」、Asadayuth Chusri。SYDNEY-ICJLE2014, 2014/7/11。University of Technology, Sydney.

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)